

スペース、3カ年計画で確定版

領域広げ800億円目指す

ディスプレイのスペースは、26～28年度の中期経営計画の確定版を発表した。25年12月の概要版と同様、最終年度に売上高800億円、営業利益率8%を目指すが、ROE（株主資本利益率）は前期業績を踏まえ、10%から12%に目標を引き上げた。既存事業の深耕や「強みを生かし領域を広げる」（庄村香史社長）ことで成長を目指す。

同社の25年12月期連結は売上高715億円（前期比

11・4%増）、営業利益48億円（39・4%増）といずれも過去最高だった。ホテルや医療施設などの大型案件のほか、複合商業施設や専門店も伸ばし、2ケタの増収。粗利益率が0・6%改善の11・6%となり、営業利益の伸びも大きくなった。

新中期計画の初年度となる今期は売上高720億円（0・7%増）、営業利益50億円（4・3%増）を見込んでいる。